

エクストリームスポーツの代表格

スケートボード

エクストリームスポーツとして、若者からの人気が高いスケートボード。そのスケートボードが、2020年の東京オリンピックに向けて「ストリート（男女）」と「パーク（男女）」の計4種目でIOCへ提案されようとしています。若者のレジャーというイメージが先行するスケートボードが、どのような歴史を持つのか、どのような試合形式で行なわれるのか、そして、パースのどこに専用パークがあるのかを紹介します。



国内屈指との呼び声の高い池田大亮選手。180トランスファーを決める。
©一般社団法人日本スケートボード協会

選出理由

なぜ TOCOG はスケートボードをIOCに提案するのか？

ストリートスポーツの代表格として、東京の都会のイメージに合致し、大会に大きな価値を付加すると考えられています。抜群の若者へのアピール力と人気面においても大きな期待ができ、日本がハブとなって世界における人気を一層加速し、若者世代へオリンピックの価値を訴求できる大きな可能性が見込まれています。



スケートボードの歴史

スケートボードはどのような経緯で誕生したのでしょうか。

スケートボードの始まりは1940年代の米国カリフォルニアにて、木の板に鉄製の戸車を付けて滑った遊び、だと言われています。スケートボードは元々、サーフィンを陸で練習するための道具として用いられていました。

50年代に入り、ローラダービー社から「ローラーサーフィン」というおもちゃが発売されましたが、それが現在のスケートボードの原型と言われています。それからだんだん

と、スケートボードは単なるサーフィン練習用の道具としてではなく、またそのスケートボードを使って独立したひとつのレジャースポーツとして進化し始め、発展していきました。

21世紀に入ってから、日本人スケーターのレベルも着実に進歩していますが、アメリカを中心とした海外では、更に早いスピードで進化と低年齢化が進んでいます。



競技としてのスケートボード

IOCへ提案される「ストリート」と「パーク」とは、どのような種目なのでしょうか。

ストリート

ストリートでは、どこの街にでもあるような階段や手すりなどといった障害物を乗り越えながら技を繰り出していきます。技の高さや回転、独自性、難度などを争う採点競技です。



Kグラインドを繰り出す関西期待のルーキー、谷口昇太郎選手。
©一般社団法人日本スケートボード協会

パーク

パークとは、クォーターパイプ（ハーフパイプが更に半分になったノの字型の傾斜）やボウル（椀型に窪んだ傾斜）などの障害物が設置されたエリアをいい、そのエリアでトリックを競い合います。



若きエース、田中陽選手がフロントサイドエアーを決める。
©一般社団法人日本スケートボード協会

情報元：All Japan Skateboard Association（一般社団法人日本スケートボード協会）ウェブサイト：www.ajsa.jp

1982年に現役の選手達を中心とした、スケーターのためのスケーターによる協会として活動をスタートした。日本におけるスケートボードの発展と普及に努めるとともに、国民の心身の健全なる発達に寄与することを目的としている。

情報元：Japan Roller Sports Federation（日本ローラースポーツ連盟）ウェブサイト：www.jrsf.com

1953年に日本ローラースケート連盟として設立。2006年に日本ローラースポーツ連盟へと名称が変更された。日本におけるローラースポーツを統括して代表する団体として、ローラースポーツの普及振興に寄与することを目的としている。